

2 学年 後期 学習内容と評価規準

後期の学習内容と学校が評価をするにあたっての規準の例です。

※すべてこのように評価しているわけではありませんが、これを規準にあゆみを作成しております。

【知・技】…知識及び技能の評価

【思・判・表】…思考力、判断力、表現力等の評価

【態】…主体的に学習に取り組む態度の評価

教科	単元名・教材名	評価規準
国語	お手紙 ※主語と述語に気を付けよう ※かん字の読み方 ※秋がいっぱい	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。文の中における主語と述語との関係に気づいている。 【思・判・表】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。
	そうだんにのってくださーい	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 【態】積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
	紙コップ花火の作り方 ※にたいみのことば、はんたいのいみのことば ※せかいーの話 ※かん字のひろば④	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【態】進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したり、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。
	みきのたからもの	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 【思・判・表】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 【態】登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見通しをもってお話を紹介する文章を書こうとしている。
	お話のさくしゃになろう ※冬がいっぱい ※ねこのこ おとのはな ※はんたいことば ※かたかなで書くことば ※ことばを楽しもう	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。 【思・判・表】自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 【態】事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って、物語を書こうとしている。
	ロボット	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 【思・判・表】文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。 【態】文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。
	ようすをあらわすことば	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 【思・判・表】語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 【態】進んで身近なことを表す語句の量を増やして語彙を豊かにし、学習課題に沿って、様子を表す言葉を使って文を書こうとしている。
	見たこと、かんじたこと ※カンジーはかせの大はつめい	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 【思・判・表】詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけている。 【態】粘り強く身近なことを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって詩を書こうとしている。
	すてきなところをつたえよう	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。 【思・判・表】語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 【態】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
	スーホの白い馬 ※かん字の広場⑤	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。 【態】文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習課題に沿って、最も心を動かされたことを伝え合おうとしている。
	楽しかったよ、二年生 ※二年生をふりかえって	【知・技】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。 【思・判・表】相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 【態】行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を粘り強く考え、これまでの学習をいかして発表しようとしている。
	どうぶつ園のじゅうい ※かたかなのひろば ※ことばあそびをしよう ※なかまのことばとかん字	【知・技】文の中における主語と述語の関係に気づいている。共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、これまでの学習をいかして、文章を読んで考えたことを友達と話をしようとしている。
書写	・「そり」のほうこう ・「点」のほうこう ・水ふでで書いてみよう ・字の形 ・字の中心 ・書初め ・二年生のまとめ	・文字を書くときの姿勢を正しくしている。 ・筆記具の持ち方を正しくして、書こうとしている。 ・点画（反り）（点）の方向に注意して、文字を正しく書いている。 ・点画の書き方（止め・はね・払い）に注意しながら、水書用筆で丁寧に書いている。 ・文字の形（外形）（中心）に注意しながら、丁寧に書いている。

教科	単元名・教材名	評価規準
	見方考え方をふかめよう(2) ※しきと計算 ※ふくしゅう	【知・技】増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解することができる。 【思・判・表】増減する数量に着目し、数図ブロックを操作したり、図に表したりして、まとめて考えている。 【態】数量が増減する場合の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通してまとめて考えることのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
算 数	かけ算(1)	【知・技】乗法の意味やその計算の仕方を理解し、2から5の段までの九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。 【思・判・表】ブロック操作をもとに1つ分の大きさや積の増え方のきまりに着目し、九九を構成している。 【態】かけ算九九の構成に進んで関わり、ふり返りを通して累加の簡潔な表現としてかけ算の式にかくことや九九のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
	かけ算(2)	【知・技】九九とその構成の仕方を深く理解し、6から9の段や1の段の九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。 【思・判・表】かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることに着目し、九九を構成することができる。 【態】かけ算九九の構成に進んで関わり、ふり返りを通して累加の簡潔な表現としてかけ算の式にかくことや九九のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
	三角形と四角形 ふかめよう(3) ※どんな計算になるのかな ※何番目 ※ふくしゅう	【知・技】三角形や四角形、及び、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解し、それらを弁別したり、点を直線でつないだり紙を折ったり方眼紙を使ったりして構成することができる。 【思・判・表】直線の数や辺の長さや直角に着目して、三角形や四角形の特徴や性質をとらえたり、敷き詰め方を考えたりしている。 【態】三角形や四角形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して直線の数や辺の長さや直角に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。
	かけ算のきまり	【知・技】九九の表の見方や乗法に関して成り立つ性質を理解し、簡単な2位数と1位数のかけ算の答えを求めることができる。 【思・判・表】九九の表からいろいろなきまりを見いだしたり、簡単な2位数と1位数のかけ算の仕方を考えたりすることができる。 【態】九九の表の考察に進んで関わり、ふり返りを通してかけ算九九のきまりのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
	100cmをこえる長さ ※ふくしゅう	【知・技】長さの単位「m」について理解し、1mものさしを使って手際よく長さを測ったり、長さを「m」の単位を用いて表したりすることができる。 【思・判・表】大きな長さの単位の必要性に気づき、量感をもとに長さを予想したり適切な単位を判断したりしている。 【態】長さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して長さにあわせて適切な普遍単位を使うことや長さの量感を身につけておくことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。
	1000をこえる数	【知・技】10000までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みをもとにして、10000までの数を表したりよんだりすることができる。 【思・判・表】10000までの数について、1000までの数と同じように、100や1000などを単位としてそのいくつ分とみて表現している。 【態】10000までの数に進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。
	はこの形	【知・技】箱の形とその構成要素について理解し、工作用紙やひご、粘土玉を使って、箱の形やさいころの形をつくることができる。 【思・判・表】箱の形の構成要素に着目して特徴をとらえたり、面、辺、頂点の位置やつながり方に着目して箱の形づくり方を考えたりしている。 【態】箱の形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して面、辺、頂点の数や位置に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。
	分数 ※わくわくプログラミング ※よみとる算数 ※もうすぐ3年生	【知・技】具体的な操作を通して1/2や1/4、1/3の大きさを理解し、その大きさをつくったり分数で表したりすることができる。 【思・判・表】もとの大きさを基準として、その半分の大きさのつくり方を考えたり、つくった大きさを分数で表したりしている。 【態】1/2や1/4、1/3の大きさに進んで関わり、ふり返りを通して何等分かした大きさを分数で表すことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。
生 活	えがおのひみつ たんけんたい	【知・技】地域の多様な場所や人々に関わる学習や、身近な人々と伝え合う学習を通して、身近な人々と関わるよさや楽しさ、適切な接し方がわかっていく。 【思・判・表】地域の多様な場所や人々に関わる学習や、身近な人々と伝え合う学習を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりや、公共物のよさや働きを捉えたり、相手のことを想像して伝えたいことや伝え方を選んだりしている。 【態】地域の多様な場所や人々に関わる学習や、身近な人々と伝え合う学習を通して、地域に親しみや愛着をもち、すすんで触れ合い交流することや、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。
	作ってためして	【知・技】身近なものを使ってできる遊びの面白さ、素材のもつ特徴や不思議さなどに気付いている。 【思・判・表】身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ学習を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作っている。 【態】身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ学習を通して、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとする。
	あしたへつなぐ 自分たんけん	【知・技】自分自身の生活や成長を振り返る学習を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかっていく。 【思・判・表】自分自身の生活や成長を振り返る学習を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えている。 【態】自分自身の生活や成長を振り返る学習を通して、自分自身の成長に関心をもち、これまでの生活や成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。

教科	単元名・教材名	評価規準
音楽	音色とリズム	【知・技】思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて楽器を演奏する技能を身に付けている。 【思・判・表】音色やリズムなどを聴き取り、その面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いたり、歌詞に合った音色を工夫し、どのように表すかについて思いをもったりしている。 【態】楽器の音色やリズムに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
	おまつりの音楽	【知・技】思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。 【思・判・表】音色やリズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、演奏の楽しさを見いだして聴いている。 【態】いろいろな太鼓の音に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
	音楽のながれ	【知・技】曲想と音色など音楽の構造との関わりについて気付いている。 【思・判・表】音色、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。 【態】音楽の構造に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
	くりかえしとかさなり	【知・技】思いに合った表現をするために必要な、互いの声や楽器の音を聴き、声や音を合わせて演奏する技能を身に付けている。 【思・判・表】反復、音の重なり、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもったり、曲の楽しさを見いだして聴いたりしている。 【態】曲想を感じ取って表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
	みんなの音楽	【知・技】思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。 【思・判・表】音色や音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲想に合った表現を工夫し、どのように演奏したいかについて思いをもっている。 【態】曲想を感じ取って歌ったり聴いたりすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

図工	全ての単元を通して	【知・技】クレヨン・絵の具、はさみ、のりなどの材料や道具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。 【態】単元の活動を楽しんで取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。
	くしゃくしゃ ギゅっ	【知・技】紙をくしゃくしゃにしたり、くしゃくしゃにした紙から思い付いたものを表したりするときの感覚や行為を通して、触った感じやいろいろな形や色などに気付く。 【思・判・表】くしゃくしゃにする紙の感触や形から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
	音づくりフレンズ	【知・技】音が鳴る材料や仕組みから、思い付いたものをつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付く。 【思・判・表】材料を鳴らして感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
	であって生まれる いろのせかい (鑑賞)	【知・技】絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、いろいろな色や形などに気付く。 【思・判・表】変化する色の様子などの造形的な面白さや楽しさなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
	ふしぎなたまご	【知・技】不思議なたまごから生まれるものやお話を、思いを広げて表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。 【思・判・表】たまごをつくりながら想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
	おはなしから うまれたよ	【知・技】読んだり聞いたりした物語から想像を広げて絵に表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。 【思・判・表】物語を読んだり聞いたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
	まどをあけたら	【知・技】カッターナイフで窓を開けながら思い付いたことを表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。 【思・判・表】カッターナイフで窓を開けながら感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
	おもいでをかたちに	【知・技】生活の中で心に残っていることを粘土で表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形、触った感じなどに気付く。 【思・判・表】生活の中で感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
	たのしくうつして	【知・技】紙で形をつくったり、つくった形で版に表したりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。 【思・判・表】形を写して感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
	だんボールに 入ってみると	【知・技】段ボールに体全体で関わるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や触った感じなどに気付く。 【思・判・表】段ボールの形や大きさなどを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。

図工	とびだせ びよん	【知・技】飛びだす動きから発想を広げてつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。 【思・判・表】飛びだす動きから感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
	草花の おしゃべり (鑑賞)	【知・技】身の回りの草花を見ておしゃべりを想像するときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。 【思・判・表】草花の造形的な面白さや楽しさなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

教科	単元名・教材名	評価規準
体 育	鉄棒を使った遊び ※体ほぐしの運動遊び	【知・技】ふとん干し、さる、だんごむし、ぶらさがり、つばめ、前回り下り、跳び上がり、後ろ跳び下りなどの技ができる。 【思・判・表】や足、腹でぶら下がった姿勢でじゃんけんをしたり、支持して体を揺らして遠くへ跳ぶ競争をしたりするなど、自分の力に合った楽しくできる遊び方を考え、選んでいる。 【態】跳び下りたりするときなどに、危ないものが無いか、近くに人がいないか、器械・器具が安全に置かれているかなどの場の安全に気を付けている。
	ボール蹴りゲーム	【知・技】キックベースボールや的あてボール蹴りゲームの行い方がわかる。ねらったところにボールを蹴って得点につなげることができる。 【思・判・表】楽しボール蹴りゲームをするための規則の中から、自分の力に合った規則を選んでいる。 【態】順番や規則を守り、誰とでも仲よくしている。勝敗を受け入れている。
	跳の運動遊び	【知・技】幅跳び遊びや高跳び遊びの行い方がわかる。 【思・判・表】自分の力に合った跳ぶ場を選んでいる。幅跳び遊びの感想や跳び方のポイント、友達のよい跳び方を書いたり、発表したりして友達に伝えている。 【態】跳ぶ場所に危険物が無いか、友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの跳ぶ場所の安全に気を付けている。
	ボール投げゲーム	【知・技】ボール投げゲームの行い方がわかる。ねらったところにボールを投げたり、的に当てたり、得点したりすることができる。 【思・判・表】ボールを速くに投げるための投げ方を工夫したり、練習の場を選んだりしている。 【態】勝敗を受け入れている。ボールを投げる場所に危険物が無いか、友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付けている。
	鬼遊び	【知・技】少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり、走り抜けたりすることができる。逃げる相手を追いかけてタッチしたり、マーク（タグなど）を取ったりすることができる。 【思・判・表】少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり、走り抜けたりする行い方について、動作や言葉で友達に伝えている。 【態】順番や規則を守り、誰とでも仲よくしている。勝敗を受け入れている。
	マットを使った運動遊び	【知・技】マットに背中や腹をつけて揺れたり、いろいろな方向に転がったりすることができる。 【思・判・表】複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んだり、動物に変身して行う運動遊びの中から動物の動きを選んだりしている。 【態】転がったりするときなどに、危ないものが無いか、近くに人がいないか、器械・器具が安全に置かれているかなどの場の安全に気を付けている。
	スキー遊び	【知・技】運動の行い方を知るとともに、スキーの用具の 扱い方や名称について理解している。 【思・判・表】スキーを履いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。 【態】運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動したり、場や用具の安全に気を付けたりしている。
	跳び箱を使った運動遊び	【知・技】跳び箱を使った運動遊びの行い方がわかる。 【思・判・表】友達のよい跳び方を擬態語や擬音語で表現したり、学習カードに書いたりしている。 【態】跳び箱遊びに進んで取り組んでいる。順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしている。